

# ボウリング実施要項

1. 日 時 11月9日(土)
2. 会 場 シチズンプラザ
3. 主 管 東京都ボウリング連盟
4. チーム編成

監督1名、選手男子の部3名、女子の部3名、混合の部(男女2名ずつ以上の5名)で編成する。補欠は各部1名(混合の部は男女1名ずつ)のみ認める。男子の部、女子の部に出場した選手が混合の部に出場しても差し支えない。なお、監督は選手を兼ねても可。各都道府県から2チームまで参加できる。

## 5. 参加資格

- (1) 本大会の参加資格は、下記の通りとする。但し各都道府県選手団役員(団長、副団長、総監督・総務)、監督はこの限りではない。
  - ①1979(昭和54)年4月2日から2004(平成16)年4月1日までに出生した者。
  - ②原則、2019(令和元)年5月1日からひきつづき当該都道府県に居住、または在勤・在学する者。
  - ③全日制高等学校の生徒は参加対象としない。
  - ④定時制または通信制高等学校、高等専門学校、各種学校の生徒は一般青年として参加できる。
- (2) 日本青年団協議会正会員または各都道府県の大会窓口からの選出または推薦を受けた者。
- (3) ボウリング競技混合の部に出場するチーム選手全員が男子の部、女子の部と兼任する場合、混合の部の参加費は免除する。
- (4) 個人戦のみのエントリーはできない。
- (5) 参加者は医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者とする。
- (6) 過去5年以内に、次にかかげる大会に出場したものは参加できない。
  - (ア) 国際競技会
  - (イ) 全日本選手権大会
  - (ウ) 国民体育大会ボウリング競技
- (7) 国内外で職業競技者(演技者・技術者)としての活動実績を有する者は本大会に参加できない。
- (8) 無資格の選手を発見したときは、当該チーム全体を失格とする。

## 6. オーバーエイジ枠

参加資格に、オーバーエイジ枠(以下、OA(1979(昭和54)年4月1日より前に出生した者の参加を一部認める))を設ける。OAが参加する場合は登録選手のうち男子の部、女子の部各1名、混合の部は男女各1名とする。

## 7. 参加申込

締切期日をすぎた後の申込および変更は一切受け付けない。ただし、以下の場合はその限りではない。

- (1) 本人が病気、けがで入院するなど参加不可能の場合、医師の診断書を、10月18日(金)必着で大会本部に提出すれば参加登録は抹消する。なお、病気、けがなどの理由で参加登録抹消者が発生し、チーム全員の参加が不可能となった場合は、チーム全員の参加登録を取り消す。
- (2) 団体競技種目で参加登録抹消者(理由に関わらず)が発生した場合、参加者の入れ替えを認める。また、入れ替え登録は10月18日(金)必着で大会本部へ所定の様式にて郵送で申請し、なおかつ種目別監督会議での報告を義務とする。入れ替え後の氏名はプログラムには記載されない。なお、書類に不備がある場合は入替登録を認めない。なお、入れ替え登録した参加者の大会参加費及び大会運営費、保険料は発生しないものとする。

## 8. 競技方法

- (1) 公益財団法人全日本ボウリング協会(J. B. C)の競技規定に準じて行う。

- (2) 競技種目は、団体競技で男子の部（各チーム男子3名）、女子の部（各チーム女子3名）、混合の部（ベーカーク方式：各チーム男女2名ずつ以上の5名）の3部門を行う。
- (3) 試合方法は、男子の部、女子の部では全員が前半3ゲーム、後半3ゲームを投げ、6ゲームのトータル点数により順位を決定する。出場チーム数によっては上記試合方法によらず、新たな試合方法を用いることもあり得る。この場合は、試合方法は10月半ばをめどに日本青年団協議会正会員または各都道府県の大会窓口連絡した上で、監督会議等で発表する。
- (4) 混合の部は、ベーカーク方式とする。
- ①各ゲームの決められた投球順序の5名がフレームずつを投球し、1ゲーム10フレーム終了する。投球順序はゲームごとに変えることができるが、ゲーム内で変えることはできない。
  - ②参加チームをグループ分けし、総当たりリーグ戦を行う。グループ数は参加チーム数により主催者で振り分ける。また、参加チームが少数の場合は主催者判断で、総当たりリーグ戦とし、7ゲーム実施とし、その総得点により順位を決定する。
  - ③リーグ戦は、ヨーロッパ方式で行い、一勝につきゲーム得点の他にボーナスポイントとして20点が加算される。引き分けの場合は両チームに10点ずつ加算される。
  - ④リーグ戦終了後、全チームがファイナル戦2ゲームを行い（2ゲーム目はレーンを交替）、最終順位を決定する。
  - ⑤同得点が出た場合、高得点ゲームと低得点ゲームの差の少ない方を上位とする。さらに点差が同じ場合は、両チームの代表1名が第9フレーム、第10フレームを決着がつくまで投球する。
- (5) 男子の部・女子の部で同点数が出た場合、チームの前半、後半各3ゲームのシリーズ合計の得点差が少ない方を上位とする。さらに差が同じ場合は、両チームの代表1名が第9フレーム、第10フレームを決着がつくまで投球する。
- (6) フェールラインを超えた場合ブザー及びランプで知らせる。なお、ラインを超えずに合図が出た場合、その場を動かずに運営委員に確認を求めること。
- (7) 服装は各チームで統一し、スポーツのできる襟付きのもの（ Polo・開襟シャツ）を着用する。背中に氏名を記したゼッケンをつけること。ユニフォーム自体にチーム名及び選手名を明記してあるものに関しては、ゼッケンをつけなくてもよい。なお、ジーンズ、ショートパンツでの出場は認めない。
- (8) ユニフォームは、監督会議にて確認する。
- (9) 選手変更は、補欠にて認めるが、オーダーの変更は認めない。ただし、補欠については男子の部、女子の部各1名、混合の部では男女1名ずつを認める。

## 9. 表彰

- (1) ベスト4まで表彰し、賞状を授与する。
- (2) メダルは、1位チームに金メダル、2位チームに銀メダル、3位チームに銅メダルをチーム全員に授与する。
- (3) 1位チームには優勝旗とカップ、2位及び3位のチームには楯を授与する。
- (4) 男子の部、女子の部のゲームにおいて、1ゲームで最も高得点をあげた選手各1名に『ハイゲーム賞』として賞状と楯を授与する。

## 10. 東日本大震災に伴う参加資格の特例について

震災による被害状況及び影響等を考慮し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域県（以下、「特例対象県」）とし、前記参加資格を満たした上で、当該被災地域県からの避難等により、2011（平成23）年3月11日以降移動せざるを得なかった場合、避難前に在住していた県から参加することができる。ただしこの場合、2011（平成23）年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住していた者であることを当該県選手団長が証明する書類を提出することを条件とする。なお、書式については別途指定する。

## 11. その他

- (1) 基準要項、体育の部要項に定めるところによる。
- (2) 参加者は、大会本部が指定した旅行業者を通じて航空券や乗車券及び宿舎を申し込む。ただし、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県は関東近郊のためこの限りではない。

また、沖縄県は指定旅行業者を通じ航空券と宿舎を併せて手配することができないため、宿舎のみ指定旅行業者により手配する。

(3) 監督が2チーム以上を兼務する場合でも支払うチーム参加費に変更は無い。

(4) 記載のない内容については主催者で判断する。



# スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター